

ページ	意見等の内容	意見に対する回答の内容
P13	アンケートの回収率40.7%をどう評価するのか（貧困、ネグレクト等の保護者によるアンケートへの非協力の数値はないのか）	子ども・子育て支援事業計画の策定のために3年前に実施した、ニーズ調査の回収率（56.1%）と比較して15.4%の減となりました。調査内容等により回答が得られにくい面があったと考えます。 なお、無作為抽出、無記名提出のため、非協力者の特定はできません。
P27	「国の大綱25の指標」の「本市」の該当なし—はどのような意味かわからない。	「該当なし」については、指標に該当する年齢の子どもが赤磐市の生活保護世帯にいないため、「該当なし」と記載しています。 「—」については、数値が不明なため、不明の意味で「—」と記載しています。
P 36.37	P36（2）地域・民間活力の活用、P37（1）相談機能の強化、地域ボランティア等による見守り支援、NPO・地域団体等への活動支援では、「活動を支援します」とあるが、「支援」とはどういうものか。	地域住民によるボランティアや民間団体との連絡調整、連携、補助等を想定しています。今後、支援の方法について、検討を行っていきます。
P41	「教育の支援」不登校の子どもへの教育の保障についてふれられていない。	教育の保障は重要な課題です。適応指導教室・青少年育成センターなどの関係機関と連携して不登校の児童が活動意欲を持ち、集団活動に参加する力を高めることができるよう支援します。適応指導教室の充実を図ります。の記載で対応いたします。
その他	提案1：JR熊山駅利用の定期券で通学する市民に対し、助成金交付してはどうか。 提案理由1：子育て家庭アンケート調査結果から見ても、どの家庭でも通学や塾等に通わせる費用が家計に占める割合は高いことがわかる。お隣の和気町は、和気駅からの定期券利用の通勤・通学者への4割助成金を交付している。若い子育て世代の定住を促進するための施策だ。我が子は4人いるが、豊田小生徒数は、長男入学の8年前と比較しても、現在は2割も減少しているので、子育て世代定住策は急がれていると感じる。そして、赤磐市唯一のJR玄関口である熊山駅の利用向上・活性化のためにも、ぜひ定期券助成金を検討すべきではないか。議会だよりで来年度よりロータリーが改修されると聞いているので、併せてどうか。	赤磐市教育委員会では高等学校等に通われている生徒を持つ保護者に対して通学費の一部について補助制度を検討中です。 P43（4）高等学校等における就学継続のための支援、高等学校等通学費補助の記載で対応します。
その他	提案2：インフル出席停止後の治癒証明について、赤磐市教育委員会も「不要」とすべきではないか。 提案理由2：2018. 2.4付けの山陽新聞朝刊の第一面に大きく掲載されていた記事をまずご覧いただきたい。保護者は看病でも仕事を休み、さらに受診にも休まなければならないのは、保護者負担が大きいという県民の意見。また、せっかく治癒しても、証明書をもらうために受診し、また別の型のインフルをもらいそうで不安という意見にも同感だ。今季はインフルが大流行し、我が子4人も長男を筆頭にかかり、長男の中学の治癒証明をもらいに行った際に、仕方なく1歳児を連れて受診したところ、別型インフルを1歳児が発症し、大変辛かった。まだ保育園にも行っていないのに。現代は核家族化が進み、幼い子を診てくれる祖父母が同居していない家庭が多いので、子どもが病気時の看護と仕事の板挟みに悩む親は多い。証明書の要・不要は、教育委員会毎に定められていることを、この記事で初めて知った。県内でも、瀬戸内市・総社市・高梁市・鏡野町は、既に「不要」としている。赤磐市教育委員会でも、ぜひ、この点をご検討いただきたい。子育て家庭にとっては（特に核家族や多子世帯）、証明書をもらうための病後の通院負担はとて大きなものであることをご理解いただきたい。病院側も、流行時はインフル患者対応だけで、てんてこ舞いの様子で、機械的に診察されるので、受診してよかったという満足感はなく、ただ、隣のカーテン越しの別型インフル菌をもらわなかったかという不安感がつのるだけだった。	赤磐市教育委員会では岡山県教育委員会の方針に準じて対応しております。 貴重な御意見として伺い、岡山県教育委員会にも報告させていただきました。